

**産業建設委員会 前期（平成29年度～平成30年度）まとめ**

各テーマについて、2年間にわたる調査研究や委員会活動から、委員会において議論を重ね、執行機関への提案としてまとめました。

**調査研究テーマ「道と景観（ランドスケープ）について」**

西部山麓線、竜東・竜西広域農道や信濃路自然歩道等から展開する景観はポテンシャルが高く、道の活用は、ツーリズム、癒し、健康、地域づくり等に通じることが明らかになってきた。また、リニア・三遠南信ネットワークが整備される大交流時代の到来を前に、飯田市の「道」や景観が持つ潜在的価値をあらためて洗い出し活用していくことは、新しいまた意義ある政策と考える。次の3点について提案する。

- 1 「道」と景観（ランドスケープ）を、「飯田市観光振興ビジョン推進ロードマップ」など、今後の観光戦略を推進する視点として重視されたい。特に、西部山麓線、広域農道（竜東・竜西）や信濃路自然歩道等の活用について、地域と協働し観光地域づくりの資源として磨かれたい。
- 2 「道」と景観（ランドスケープ）を、飯田市の土地利用基本方針等に反映されたい。また、必要に応じ関係計画の見直しや、関連する道路整備を進められたい。
- 3 「道」と景観（ランドスケープ）を、地域磨きや健康づくり等につなげ、シビックプライドの醸成や飯田市への人の流れをつくる視点として重視し、総合政策的に「いいだ未来デザイン2028」を推進されたい。

**調査研究テーマ「農業振興ビジョンについて」**

調査研究の中で、特に担い手不足への対応が重要課題であり、ブランド化や農地有効活用などの重点施策を推進するためにも、農業振興センターを中心とした関係機関の協働による推進体制の更なる強化が不可欠であるとの結論に至った。そこで、次の3点について提案する。

- 1 担い手確保について
  - (1) 新規就農者（Iターンなど）において住宅問題は大きな課題の一つであり、空き家・優良農地情報確保などに対し、庁内連携、地域内連携を深められたい。
  - (2) 親元就農、小規模・兼業農家に対する支援策を要望する意見が複数あった。営農資金や農業機械等が潤沢でない小規模な農業者の現状及び支援策のニーズを早急に把握し、課題整理を実施した上で市独自の手立てを検討されたい。
- 2 農地の有効活用、農村環境保全について
  - (1) 小規模農家だけでは限界があるため、集落営農化、法人化を進めるための人材確保（協力隊などの外部人材を含む）、マネジメント支援に積極的に取り組まれたい。
  - (2) 人口減少の進展に伴い、農地が適切に利用・管理されず周辺に悪影響を与える事例の増加が想定される。国は「土地所有に関する基本制度」の見直しを検討しているが、議論の方向性を注視しながら、市としても独自に「農地の条件に応じた利用・管理」に関して研究を進められたい。
- 3 各地区の人・農地プラン推進について
  - (1) 農業振興センターを中心とした関係機関の協働による推進体制の強化に努められたい。
  - (2) 各地区農業振興会議が今以上に機能するための支援策を講じ、特に現場が抱える固有の課題に対応されたい。